



患者さんの性格を熟知、 医師に伝えることで不安を解決

伏見区にあるゆう薬局の管理薬剤師Rさんは10年前に病院勤めから転職しました。ここで出会ったのが、心疾患・甲状腺疾患で胃ろう患者の70代の堀さん（仮）。堀さんは病気で声が出し難いため、周囲の人はコミュニケーションに困難を感じていました。Rさんは堀さんの自宅を訪問するたびに、居間まで経腸栄養剤を箱ごと運び入れ、様子を尋ねては薬の内容や効用について、時間をかけて丁寧に説明。やや神経質なくらいに、薬や治療の詳細な情報を求める堀さんと、信頼を築きあげていました。

そんなある日、Rさんが堀さんの家を訪れたところ「担当医がちゃんと診てくれているか不安」と筆談交じりで訴えるのです。よく聞いてみると、体がだるく動悸がすると受診した堀さんに、医師は「水分摂取を多めに」とだけ伝えて、短時間で診察は終了したそうです。医師の診断は的確だとすぐにわかったRさんですが、同時に堀さんの性格を熟知していたため、医師に状況を伝えたほうがいいと感じました。そこでRさ

んは堀さんの受診時の不安と、1週間の体調変化を時系列でメモにまとめ医師に渡します。そんな配慮を受けて、医師は「短い診察時間で誤解を与えて申し訳なかった。堀さんの体調不良は夏場の気温上昇が原因と思われるので、水分摂取が大事です。これからも疑問や不安は、メモにしてぜひ教えてください」と伝言してくれました。医師からの言葉がけに納得した堀さんは、照れくさそうな笑顔で声を絞り出し、「あり・が・と・う」とRさんに伝えました。

実は、以前のRさんは病院勤務で、患者さんとの距離はそこまで近くなかったと振り返ります。「今は市中にあるゆう薬局で、患者さんに寄り添う毎日に、薬剤師としての喜びを感じます」とRさんは目を輝かせます。実際、患者さんの容態と、医師が必要とする情報の両方がわかる薬剤師はチーム医療の要なのです。

「患者さん一人ひとりにふさわしい医療を」。ゆう薬局の薬剤師はそんな思いで今日も患者さんを見守り続けているのです。



ゆう薬局

ハンケイ500m物語

vol. 17

なんでも相談できる「ゆう薬局」には、お客さまとの物語があります。

豆知識

脱水症と水分補給

脱水症は発汗だけでなく気温や乾燥、様々な要因によって起こります。室内で起こる事も多いので、夏場の暑い日はこまめな水分補給を心がけましょう。

ゆう薬局グループ本部・
宇野薬局

☎075-771-1690(本部)

📍京都市左京区浄土寺下
馬場町106

🚶🏻‍♂️よりバス停は「錦林車庫前」